国 語

日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2月7日	一	評論読解（藤田省三「ナルシズムからの脱却」による） 漢字の選択・傍線部解釈・文学史・空所補充・主語判定・内容一致	やや難
	二	評論読解（佐藤泉『死政治の精神史』による） 傍線部解釈・言葉の意味・空所補充・内容一致	やや易
	三	国語常識問題 文意の判定・表現不備判定・語句の正誤判定・語句の選択	標準
2月8日	一	評論読解（品川哲彦「つかのまこの世にある私／私たち」による） 漢字の選択・空所補充・傍線部解釈・語彙（類義語）・内容一致	やや難
	二	評論読解（牧野篤『社会づくりとしての学び』による） 傍線部解釈・空所補充・漢字の選択・言葉の意味・内容一致	やや易
	三	国語常識問題 文意の判定・表現不備判定・語句の正誤判定・語句の選択	標準
2月9日	一	評論読解（石川准「アイデンティティの政治学」による） 漢字の選択・傍線部解釈・文整序・空所補充・内容一致	標準
	二	評論読解（岡潔『日本の心』による） 空所補充・文学史・理由判定・傍線部解釈	易
	三	国語常識問題 表現不備判定・語句の正誤判定・語句の選択	やや易
2月10日	一	評論読解（山本健吉『行きて帰る』による） 漢字の選択・傍線部解釈・文学史・空所補充・内容一致	標準
	二	評論読解（鈴木亨『現代思想講義』による） 漢字の選択・傍線部解釈・空所補充・内容一致	やや易
	三	国語常識問題 語句の選択・文意の判定	やや易
3月6日	一	評論読解（土橋茂樹『振り向きざまのリアル』による） 漢字の選択・傍線部解釈・空所補充・語句の用例・内容一致	標準
	二	評論読解（杉田敦『境界線の政治学』による） 漢字の選択・空所補充・傍線部解釈・内容一致	やや易
	三	国語常識問題 語句の選択・同義語の選択・語句の正誤判定	標準

2024年度　東京経済大学　国語（傾向と対策）

＜出題傾向＞

前期4日程、後期1日程のいずれも大問3題の構成となっている。問題一が3500字程度の評論を読んで10問の設問に答える読解問題、問題二が2000字程度の短めの評論を読んで6〜7問の設問に答える読解問題、問題三が設問3〜4問、枝問1〜5問からなる国語常識の問題という構成である。問題文は人文・社会科学を中心に幅広い分野から採用されており、いずれも筆者の考えが論理的に展開される評論が中心である。ここ数年は小説や随筆など文芸的な作品からは出題されていないが、今年度2月9日の岡潔の文章はやや随筆的であった。解答形式はすべて4〜8肢択一のマーク式となっている。

問題一・問題二の設問は、文脈を論理的に捉える力を問う問題が中心である。具体的には、問題文中に引かれた波線部の内容・理由・具体例を問う問題、問題文の空所に入る語句・表現・内容を選ぶ空所補充形式の問題があり、最後には、問題文全体の主旨の理解を問う内容一致問題が出題されている。日程によっては、それに文学史や文法・語彙に関する問題等の知識問題が加わることもある。

問題三は、言語事項（漢字・文法・語彙など）に関する独立した知識問題である。文意が一通りに限定されるものを選ばせたり、言葉の表記や使い方の正誤を判定させたりするなど、さまざまな形式の国語常識に関する出題がなされている。設問数は一定でなく、いくつかのパターンが組合せられているが、慣用句を完成させる空所補充は全日程で出題されている。

＜学習対策＞

以上に分析したように、オーソドックスな読解形式が中心で、論理的な文章を正確に読み解く力が求められているものの、漢字の問題の占める割合が高いことも特徴の一つである。問題三が国語常識問題に特化した問題であることからも、読解力に加えて語彙力も身につけていることが受験生に求められている。この問題三は標準的な難易度ではあるが、形式に慣れていないと戸惑うところもあるので、過去問ですべてのパターンに習熟しておく必要がある。入試本番では、手を付けやすい問題三から解き始め、問題文が短く比較的平易な方の問題二を解いてから、問題一に向かうというのが効率的かもしれない。

本番を迎えるまでの対策であるが、十分な傾向分析ができればおのずと必要な対策は見えてくるはずである。大事なことは、上で述べたような読解力と語彙力を身につけていくことである。

まず読解力については、問題文が評論に限られているので、何よりも論理的な文章を読解する力を身につけなければならない。他の教科、特に理系科目に比べれば、国語とりわけ「現代文」には解法の法則がなく勉強のしようがないと考えている受験生が多いかもしれない。たしかに、数値を代入していけば正答が導けるような法則は「現代文」にはない。しかし、出題者が正答を一つに絞って出題している以上、そこには論理的・客観的な根拠が用意されているのであり、解法とは、その根拠を見つけていく方法のことなのである。それは、普段の幅広い学習の中で身につけていくべきものであるが、目標とする大学に特徴的な出題の法則性を探すことも必要であり、出題分野や形式だけでなく、実際の出題の仕方に習熟することが大切である。まずは過去問にできるだけ多く当たり、さらに同じ傾向の論理的な文章を扱った問題集に当たることで、必ず国語独自の解法のテクニックも身につけられるはずである。

また、こうした受験のためのテクニックを磨くことと並行して、文章を読む確かな力を獲得していく必要がある。そのためには、普段の国語の授業で教科書や教材を丁寧に読む習慣や、日常的に新聞の社説や論説を読む習慣を定着させることが大切である。さらには、幅広い分野の新書レベルの本も読み慣れておきたい。そうした文章を読む際には、一つ一つの文のつながり、接続語のはたらき、段落相互のつながりなどに注意しながら、論理的に読み進めていくことを心がけよう。

次に語彙力についてだが、上述のとおり、漢字問題のウェイトが高く、さらに慣用表現や四字熟語などを問う問題も頻繁に出題されているので、そうした問題への対策が求められる。そのためには漢字と語句の問題集を何冊か仕上げるような練習が必要である。その際、わからない言葉に出会ったらその場で労を惜しまずに辞書を引いて確認していくような姿勢が大切だ。また、一つ一つの知識をバラバラに覚えるのではなく、たとえば、類義語・対義語といったように、知識の関連性を考えて学んでいくようにしたい。そうすれば、知識の幅も広がり、応用もきくようになるはずだ。さらには副教材に『国語便覧』を使っているならば、それも活用しよう。これによって四字熟語や故事成語と言った国語常識だけでなく、必要な文学史の知識も得ることができる。地道な学習を積み重ねていけば、語彙力は自然と身についてくる。語彙力は文章を読解するための基礎である。その意味で、漢字や語句の学習は読解力の土台を築くためにも有効なのである。

以上のように、十分な傾向分析に基づく対策と、普段の読書を行っていけば、必ずや合格への道は開けるはずである。

以上